

# 真・魅力通信

保幼こ小中一貫コーディネーター：奥村 崇志

## 第4回袋井あやぐも学園幼小中一貫教育研修会

～しっかりしつけ、たっぷりほめる。そしてじっくり考えさせる～**その2**

生き方部

授業づくり部

特別支援部

体づくり部

学びづくり部

心づくり部

前号に続き、11月1日（火）に行われた第4回袋井あやぐも学園幼小中一貫教育研修会について紹介します。公開授業を参観し、久我先生の講演を聞いた後は、6つのグループに分かれて分散会を行いました。分散会の前半は授業の振り返りを行い、「**?型の学習課題により児童の学習意欲が高まっていく様子**」や「**カリキュラムに掲載されていることが児童の姿にどのように表れているのか**」などについて、活発に意見交換しました。

後半は、各部で設定されたテーマを話し合うとともに今年度の成果や来年度以降の課題について議論しました。さらに、「**袋井あやぐも学園カリキュラム活用シート**」を用いて、職員一人一人が、個人の実践の振り返りを行いました。



## 分散会での協議より

- 幼稚園の遊び、ノウハウを教えてもらって、小1の1学期に学級活動で取り入れていきたい。
- 以前在園していた児童が、周囲の児童に教え合っている姿を見て感動した。
- 数年前に比べ、児童が落ち着いて授業を受ける姿勢を見て大きな成長を感じた。
- 1年生で規範意識を学ぶことができる。とにかく、信頼関係が重要。
- 授業者が、正解や過度なアドバイスをせず、我慢して児童の意見を引き出すことができていた。
- 「どうですか？」という投げ掛けが随所に見られ、常に聞き手を意識していた。同様に、聞き手も話し手を意識していた。双方向の意識付けができている。「聞くことは、相手を大切にすること」
- 「話すスキル」を向上させようと取り組んでいるけど、他にどんな方法があるのだろうか。「スキルトレーニング」を普段の授業や生活にどのように生かせるだろうか。みんなで考えていきたい。
- 3年生がICTを使いこなしているのがすごかった。
- iPadやタブレットPCについて、「持ち帰ってどう使っているのか」、小中で連携を図り今後の取組に生かしたい。
- 「?型の学習課題」により、学ぶ意識を高めていた。学ぶ感覚として、(固定概念の) ズレや揺さぶりが、さらに意欲を高める。
- こどもたちの思いをつなげて進めていくこどもの授業。授業者は、その整理役、ファシリテーターであるという意識。
- 授業を作る上で、拠り所となるカリキュラムデザインにしていきたい。生きて活用できるカリキュラムに!
- 振り返りを話したり書いたりするときの視点を与えるとよい。



※ 袋井あやぐも学園のあゆみは、「袋井中学校ホームページ」を御覧ください。